

8

統計資料の読み取り



入試では、資料から読み取れる内容を選ぶ問題が多く出題されている。グラフや表、図など、さまざまな資料の読み取りの基礎をおさえよう！

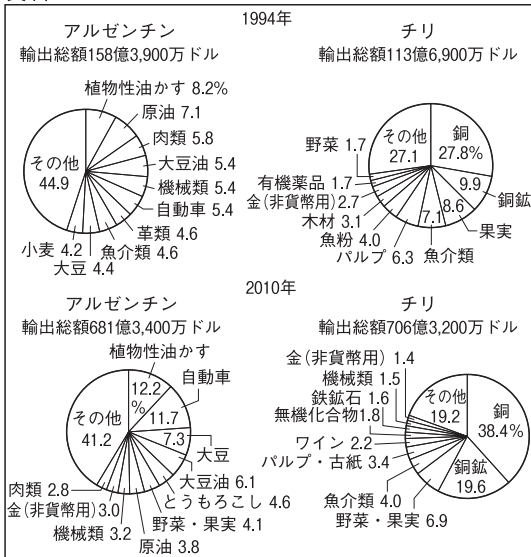


1 統計資料の読み取り問題

統計資料の読み取り問題には、資料を読み取って文を選ぶ問題、複数の資料を読み取る問題、説明文の正誤を読み取る問題などがある。さまざまなパターンの読み取りに慣れておこう！

1 世界地理 次の問いに答えなさい。

資料 1



(2012/13年版「世界国勢図会」他)

(1) 資料 1 は、アルゼンチンとチリの1994年と2010年の輸出総額と輸出品目の割合を表したものである。資料 1 から読み取れることとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- []
- ア 1994年と2010年を比較すると、アルゼンチンとチリの輸出総額は両国とも5倍以上になっている。
- イ 1994年において、アルゼンチンの輸出総額はチリの輸出総額の1.5倍を超えているが、2010年においては、チリの輸出総額がアルゼンチンの輸出総額を上回っている。
- ウ 1994年と2010年を比較すると、アルゼンチンの植物性油かすと原油の輸出額は両方とも増加している。
- エ チリの輸出総額に占める鉱産資源と鉱産品を合わせた割合は、1994年と2010年の両年とも4割に満たない。

資料 2

国名	外国人労働力人口 (千人)			全労働力人口に占める外国人労働力人口の割合 (%)		
	1995年	2000年	2005年	1995年	2000年	2005年
オランダ	282	300	288	4.0	3.9	3.4
スペイン	139	455	1689	0.8	2.5	8.1
デンマーク	84	97	109	3.0	3.4	4.0
ベルギー	364	388	435	8.3	8.6	9.1

(2012/13年版「世界国勢図会」他)

(2) 資料 2 は、1995年から2005年までの外国人労働力人口と、全労働力人口に占める外国人労働力人口の割合の推移を、5年ごとに表している。資料 2 から読み取れることについて述べた次の X・Y について、その正誤の組み合わせとして正しいものをあとのア～エから選び、記号で答えなさい。

- []
- X : 4 か国のうち、いずれの年も外国人労働力人口が最も少ない国はデンマークであるが、デンマークの全労働力人口に占める外国人労働力人口の割合は、いずれの年も最も高くなっている。
- Y : 4 か国のうち、1995年の全労働力人口に占める外国人労働力人口の割合はスペインが最も低いが、1995年の外国人労働力人口と2005年の外国人労働力人口とを比較すると、その増加率はスペインが最も高くなっている。

ア X-正 Y-正 イ X-正 Y-誤 ウ X-誤 Y-正 エ X-誤 Y-誤

(3) 資料 3 は、マレーシアの輸出品目の割合の変化について示している。資料 3 についてまとめた次の文中の

a, b にあてはまる語句をあとのア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

1975年の輸出品目の割合は a や資源が多いが、2010年は b が4割以上を占める。

ア 衣類 イ 原料 ウ 畜産物 エ 水産物 オ 工業製品 a [] b []

資料4

米の生産		米の輸出		大豆の生産		大豆の輸出	
世界合計67,202万トン		世界合計3,277万トン		世界合計26,158万トン		世界合計9,338万トン	
おもな生産国	%	おもな輸出国	%	おもな生産国	%	おもな輸出国	%
中国	29.3	タイ	27.3	アメリカ合衆国	34.6	アメリカ合衆国	45.4
インド	17.9	ベトナム	21.0	ブラジル	26.2	ブラジル	27.7
インドネシア	9.9	パキスタン	12.8	アルゼンチン	20.1	アルゼンチン	14.6
バングラデシュ	7.3	アメリカ合衆国	11.5	中国	5.8	パラグアイ	4.2
ベトナム	6.0	インド	6.8	インド	3.8	カナダ	3.0
その他	29.6	その他	20.6	その他	9.5	その他	5.1

(2010年) (2013年版「データブック オブ・ザ・ワールド」)

- (4) 資料4は、米と大豆の生産および輸出の世界合計と、米と大豆の生産国および輸出国の上位5か国を表したものである。資料4から読み取れることとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。〔 〕
- ア 生産の世界合計を比較すると大豆が米より多いが、輸出の世界合計を比較すると米が大豆より多い。
- イ 米の生産国と大豆の輸出国は、ともにアジアの国が南北アメリカの国より多い。

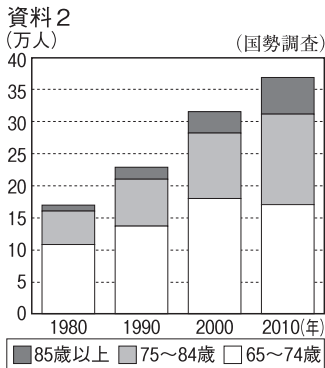
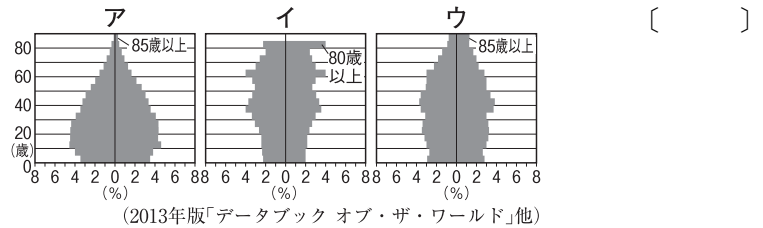
- ウ 生産の世界合計に占める輸出の世界合計の割合を比較すると、米が大豆より高い。
- エ 中国の米の生産量は、アメリカ合衆国の大豆の生産量より多い。

2 日本地理 次の問いに答えなさい。

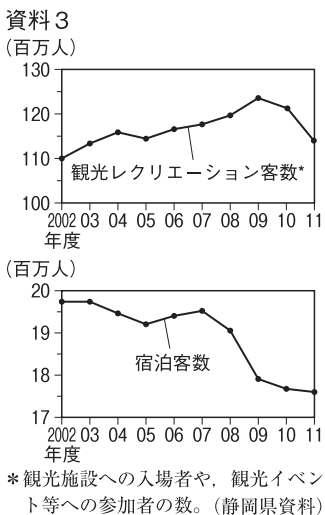
資料1

	日本 2012年		ブラジル 2010		イギリス 2008	
	男	女	男	女	男	女
0～4歳	2.2%	2.1	3.7	3.6	3.0	2.9
5～9	2.2	2.1	4.0	3.9	2.8	2.7
10～14	2.4	2.3	4.6	4.4	3.1	2.9
15～19	2.4	2.3	4.5	4.4	3.3	3.2
20～24	2.5	2.4	4.5	4.5	3.5	3.4
25～29	2.9	2.8	4.4	4.5	3.4	3.3
30～34	3.2	3.1	4.0	4.2	3.1	3.1
35～39	3.8	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6
40～44	3.8	3.6	3.3	3.5	3.8	3.9
45～49	3.2	3.1	3.0	3.2	3.5	3.6
50～54	3.0	3.0	2.5	2.8	3.1	3.1
55～59	3.2	3.2	2.0	2.3	2.9	3.0
60～64	4.1	4.2	1.6	1.8	2.9	3.0
65～69	3.0	3.2	1.2	1.4	2.2	2.3
70～74	2.6	3.0	0.9	1.1	1.8	2.1
75以上	4.4	7.2	1.2	1.7	3.0	4.7

- (1) 資料1は、3か国の年齢別男女別人口構成を示した表である。資料1をもとに年齢別男女別人口構成をグラフで表すとき、日本のグラフはどれか。次から選び、記号で答えなさい。



- (2) 資料2は、1980年から2010年までの長崎県における65歳以上の人口を10年ごとに示したものである。資料2に関するA、Bの文の正誤の組み合わせとして正しいものをあとのア～エから選び、記号で答えなさい。〔 〕
- A 2010年における65歳以上の人口は、1980年における65歳以上の人口の3倍以上となっている。
- B 65歳以上の人口に占める75歳以上の人口の割合は、1990年と2010年とを比較すると、2010年の方が大きい。
- ア A=正 B=正 イ A=正 B=誤
- ウ A=誤 B=正 エ A=誤 B=誤



- (3) 資料3の2つのグラフは、2002年度から2011年度における、静岡県の、観光レクリエーション客数と宿泊客数の推移を、それぞれ表したものである。資料3から読み取れることを次から選び、記号で答えなさい。〔 〕
- ア 2002年度から2011年度までの間で、観光レクリエーション客数が最も多い年度は、2002年度である。
- イ 2002年度から2011年度にかけて、宿泊客数は増え続けており、観光レクリエーション客数は減り続けている。
- ウ 2002年度から2011年度までの間で、宿泊客数が最も多い年度と最も少ない年度の宿泊客数の差は、200万人以上である。
- エ 2011年度における、観光レクリエーション客数と宿泊客数との合計は、1億5000万人を上回っている。

資料4

(2010年)

(4) 資料4は、九州地方の林業就業者割合、森林面積、木材生産額を示している。

県名	林業就業者割合(%)	森林面積(千ha)	木材生産額(千万円)
福岡	0.04	220	163
佐賀	0.13	111	103
長崎	0.10	247	56
熊本	0.33	467	1119
大分	0.34	459	886
宮崎	0.66	589	1807
鹿児島	0.26	591	630

(総務省資料など)

資料4を見て、正しいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 福岡県は林業就業者割合、木材生産額が最も低い。 []

イ 佐賀県は林業就業者割合、木材生産額とも大分県の5分の1以下である。

ウ 熊本県の林業就業者割合、森林面積とも宮崎県の2分の1以下である。

エ 長崎県の林業就業者割合、森林面積とも鹿児島県の2分の1以下である。

3 公民 次の問いに答えなさい。

資料1

国名	インターネット利用者数(千人)		100人あたりのインターネット利用者数(人)	
	2005年	2011年	2005年	2011年
インドネシア	8 188	43619	3.6	18.0
タイ	10 022	16476	15.0	23.7
フィリピン	4 618	27507	5.4	29.0
ベトナム	10 595	31139	12.7	35.1
マレーシア	12 692	17604	48.6	61.0

(2012/13年版「世界国勢国会」など)

(1) 資料1は、2005年と2011年の各国のインターネット利用者数と

100人あたりのインターネット利用者数を表したものである、資料1から読みとれることについて述べたX・Yの文について、その正誤の組み合わせとして正しいものをあとのア～エから選び、記号で答えなさい。 []

X：5か国のうち、2005年にインターネット利用者数が最も少なかったのはフィリピンであるが、2011年にはタイやインドネシアの利用者数を上回った。また、フィリピンは、100人あたりの

インターネット利用者数の数値も2005年と2011年を比べると、増加率が一番高くなっている。

Y：5か国のうち、マレーシアは、2005年のインターネット利用者数が一番多く、100人あたりのインターネット利用者数の数値も一番高い。また、マレーシアは、2011年にはインターネット利用者数が5か国中4番目となったが、100人あたりのインターネット利用者数の数値は依然として一番高い。

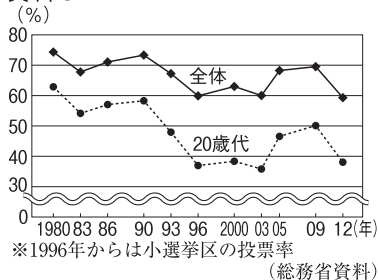
ア X-正 Y-正 イ X-正 Y-誤 ウ X-誤 Y-正 エ X-誤 Y-誤

資料2

20歳代	37.9
30歳代	50.1
40歳代	59.4
50歳代	68.0
60歳代	74.9
70歳代	73.9
80歳以上	48.1

(総務省資料)

資料3



(2) 資料2は2012年の衆議院議員総選挙における年齢別の投票率(%)を、資料3は総選挙の投票率の変化を示している。

資料2・資料3から読み取れることとして適切なものを次から選び、記号で答えなさい。 []

ア 1980年から1993年までの5回の総選挙では、い

ずれも20歳代の50%以上が投票した。

イ 2012年の総選挙では、全体の約4割が投票せず、20歳代では約6割が投票しなかった。

ウ 2012年の総選挙の年齢別投票率で、全体の投票率を下まわったのは、80歳以上と20歳代だけである。

エ 2003年の総選挙以降は、全体、20歳代ともに投票率が上昇している。

資料4

ア	51%	49%
イ	92%	8%
ウ	57%	43%
エ	44%	56%

*日本は2012年度予算、他は2009年

□ 直接税 ■ 間接税

(財務省資料)

(3) 資料4は4か国の国税における直接税と間接税の比率を示し

ており、ア～エはアメリカ合衆国、ドイツ、フランス、日本のいずれかである。次の文を読み、日本にあたるものを資料4中のア～エから選び、記号で答えなさい。 []

4か国のうち、ドイツのみ間接税の比率は直接税の比率より高い。直接税の比率が最も高いのはアメリカ合衆国である。日本は、フランスより直接税の比率が高い。

資料5

人口規模	1999年3月末		2010年3月末	
	数	人口割合	数	人口割合
50万人以上	21	20.8%	27	25.5%
30万人以上50万人未満	43	14.2%	45	14.5%
20万人以上30万人未満	41	8.6%	41	8.5%
10万人以上20万人未満	115	13.3%	154	17.8%
5万人以上10万人未満	227	13.4%	278	16.2%
3万人以上 5万人未満	262	8.5%	259	8.4%
1万人以上 3万人未満	986	14.1%	467	7.1%
1万人未満	1,537	7.1%	459	2.0%
合計	3,232	100.0%	1,730	100.0%

(総務省資料)

2002年に比べて2010年は、正規雇用者数は男女とも減少しており、減少した割合は(㉔)の方が大きい。また、非正規雇用者数を見ると、2002年に比べて2010年は男女とも増加しており、雇用者の(㉕)に1人が非正規雇用者となっている。

資料6 雇用者数とその内訳 (万人)

	雇用者数	うち正規雇用者数		うち非正規雇用者数	
		男性	女性	男性	女性
2002年	4940	2437	1052	431	1021
2010年	5111	2309	1046	539	1218

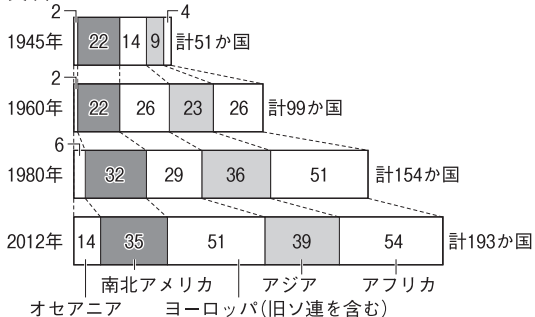
(注)非正規雇用者数は、パート・アルバイト、派遣社員等の合計を表している。また、1万人未満は四捨五入しているため、雇用者数とその内訳の合計は一致していない。

(総務省資料)

資料7 ある商品の価格と需要量・供給量の関係

価格(円)	需要量(個)	供給量(個)
400	600	280
500	520	360
600	440	440
700	360	520
800	280	600

資料8



(2013年版「データブック オブ・ザ・ワールド」)

(4) 資料5は、1999年3月末と2010年3月末の人口規模別の全国の市町村数と、全人口に占める割合を表したものである。資料5から読み取れることとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。 []

ア 2010年3月末の市町村数は、1999年3月末の市町村数の半分以下になっている。

イ 2010年3月末と1999年3月末を比べると、一番数が減っているのは、人口規模1万人以上3万人未満の市町村である。

ウ 2010年3月末では、全国の市町村に住む人の40%が人口規模30万人以上の市町村に住んでいる。

エ 1999年3月末では、人口規模3万人未満の市町村数は、全市町村数の半分以下であり、2010年3月末でも半分以下である。

(5) 左の文章は、資料6について述べたものである。文章中の(㉔)、(㉕)にあてはまる語の組み合わせとして適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。 []

ア ㉔-男性 ㉕-約3人 イ ㉔-女性 ㉕-約3人

ウ ㉔-男性 ㉕-約4人 エ ㉔-女性 ㉕-約4人

(6) 資料7は、ある商品の価格と需要量・供給量の関係を示している。資料7について述べた次の文中の[A]、[B]に当てはまる数字・語句の組み合わせとして適切なものをあとのア～エから選び、記号で答えなさい。 []

資料7によると、商品の価格が[A]円の場合には、商品は160個売れ残り、価格が400円の場合には、商品は320個[B]ことになります。そのため、需要量と供給量がつりあうように、価格は変化します。

ア A:500 B:売れ残る イ A:700 B:売れ残る

ウ A:500 B:不足する エ A:700 B:不足する

(7) 資料8は、国際連合加盟国数の地域別内訳の変化を示したものである。資料8から読み取れることとして、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。 []

ア 1945年から2012年にかけて、全加盟国数は4倍以上に増えた。

イ 1945年から1960年にかけて、加盟国数が最も増えた地域はアジアである。

ウ 1980年から2012年にかけて、増えた加盟国数の半数以上はヨーロッパ(旧ソ連を含む)国々である。

エ 2012年のアジアとアフリカの加盟国数をあわせると、全加盟国の50%を超える。